

# 終わりまであなたの道を

ダニエル書 12 : 1 - 13



司祭 ヨハネ 井田 泉

2024年11月17日

聖霊降臨後第26主日

聖光教会にて

今日の特祷でわたしたちはこう祈りました。

「主よ、どうか主の民の心を奮い立たせてください」

わたしたちの心は何によって奮い立つのでしょうか。それは聖書の言葉によります。今日の使徒書の最後にこう言われていました。

「しかし、わたしたちは、ひるんで滅びる者ではなく、信仰によって命を確保する者です。」ヘブライ 10:39

今の時代、世界のことも身近なことも悩みが多い。希望を失いそうになります。「しかし、わたしたちは」、わたしたちイエスさまを信じる者は、「信仰によって命を確保する者です」。わたしたちを奮起させる言葉です。

今日はダニエル書のお話をしたいのですが、その前に福音書に少し触れることにします。イエスはわたしたちに警戒を促していました。

「そのとき、……偽メシアや偽預言者が現れて、……できれば、選ばれた人たちを惑わそうとする。」マルコ 13:21-22

これは昔だけのことではありません。たとえば統一協会は、聖書の言葉を使ってキリスト教であるかのように近づいてくる。しかしその教えによれば、イエスの救いは不完全であって、彼らの教祖・文鮮明が再臨のキリスト、完全な救い主であるというのです。まさに偽メシアです。

ところで今日の福音書の冒頭で、イエスは「**憎むべき破壊者が立ってはならない所に立つのを見たら**」(マルコ 13:14)と書われましたが、その「**憎むべき破壊者**」はダニエル書の言葉です(11:31、12:11)。イエスは多くの聖書の言葉をご自分のうちに蓄えておられましたが、このときダニエル書の言葉が口をついて出たのです。

少し歴史的背景に触れることにしましょう。イエスさまよりも200年近く前のこと。シリアのセレウコス王朝のアンティオコス4世エピファネスが勢力を振るって領土を拡大し、エジプトにまで遠征しました。「エピファネス」とは顕現、現れ、という意味で、自分が神の現れであると自称していたのです。そのアンティオコス・エピファネスがエルサレムの聖なる神殿を汚し、そこにゼウスの像を建てた。これをダニエル書は「**憎むべき破壊者**」と呼びました。アンティオコスはエルサレム神殿の財宝を略奪し、ユダヤ人にもギリシャの神々を拝むように強要しました。

イエスは、そのようなかつての迫害、聖なる神に対する冒瀆、戦争がやがてまた起こるであろうと、ここで語られたのでした。

さて、ダニエルのことをお話ししましょう。

あの「**憎むべき破壊者**」、ゼウス像がアンティオコスによって、エルサレム神殿というもっとも神聖な場所に暴力的に建てられ

た。そのような耐えがたい苦難と混乱の時代にあつて、ダニエルは苦しみつつ祈っていました。「そのころわたしダニエルは、三週間にわたる嘆きの祈りをしていた」と記されています（ダニエル書 10:2）。

「一月二十四日のこと、チグリスという大河の岸にわたしはいた。目を上げて眺めると、見よ、一人の人が麻の衣を着、純金の帯を腰に締めて立っていた。」ダニエル書 10:4-5

彼は幻を見たのです。その麻の衣を着た人は、顔に稲妻を発し、目は松明の火のようで、腕と足は青銅のように輝き、話す声は大群衆の声のようでした。これは天使なのか。それ以上の存在なのか。ダニエルはその姿と声に圧倒され、恐怖に打たれて意識を失い、地に倒れてしまいました。

続きにこう書かれています。

「突然、一つの手がわたしに触れて引き起こしたので、わたしは手と膝をついた。彼はこう言った。『愛されている者ダニエルよ、わたしがお前に語ろうとする言葉をよく理解せよ、そして、立ち上がれ。わたしはこうしてお前のところに遣わされて来たのだ。』こう話しかけられて、わたしは震えながら立ち上がった。彼は言葉を継いだ。『ダニエルよ、恐れることはない。神の前に心を尽くして苦行し、神意を知ろうとし始めたその最初の日から、お前の言葉は聞き入れられており、お前の言葉のためにわたしは来た。』」 10:8-12

ダニエルは力強くも優しい手によって引き起こされ、「愛されている者ダニエルよ」と呼びかけられました。ダニエルは、この恐ろしい世界の情勢と信仰の迫害の中にあって苦しみつつ、神の御心を問い続けてきた。それを神は最初から聞いておられた、というのです。そしてその麻の衣を着た人は、ダニエルの問いに答えるために来た。その方は、これからこの世界がどうなっていくのかを語ってくれました。それがダニエル書 10 章から 11 章に記されています。そしてその締めくくりの言葉が、今日の旧約聖書の箇所です。

「その時、大天使長ミカエルが立つ。／彼はお前の民の子らを守護する。／その時まで、苦難が続く／国が始まって以来、かつてなかったほどの苦難が。／しかし、その時には救われるであろう／お前の民、あの書に記された人々は。」 12:1

大天使ミカエルが神の民を守ってくれる。かつてなかったほどの苦難はまだ続く。しかし時が来れば、神の民は救われる。

「多くの者が地の塵の中の眠りから目覚める。／ある者は永遠の生命に入り／ある者は永久に続く恥と憎悪の的となる。」

12:2

これは旧約聖書の中で「死人の復活」が語られている重要な言葉です。

「目覚めた人々は大空の光のように輝き／多くの者の救いとなった人々は／とこしえに星と輝く。」 12:3

そしてその方は最後にこう言いました。

「ダニエルよ、終わりの時が来るまで、お前はこれらのことを秘め、この書を封じておきなさい。」12:4

今はこのことはだれにも理解できないから、あなたは聞いたことを秘めておくように、と言われたのです。

けれどもダニエルはなお、十分理解できた気がしませんでした。この現実はいつまで続くのか。神はどのようにして救いを実現してくださるのか。ダニエルは尋ねました。

「主よ、これらのことの終わりはどうなるのでしょうか。」

10:8

するとその方はこう言いました。

「ダニエルよ、もう行きなさい。終わりの時までこれらの事は秘められ、封じられている。多くの者は清められ、白くされ、練られる。逆らう者はなお逆らう。逆らう者はだれも悟らないが、目覚めた人々は悟る。……終わりまでお前の道を行き、憩いに入りなさい。」12:9-13

今は十分理解できなくてもよい。しかし神が必ず世界と人を清められる。あなたは終わりまであなたの道を行きなさい。

イエスさまもまた、苦しみ祈りつつ、この言葉をご自分のこととして心にとめておられたに違いありません。迫害の危険が迫る中でイエスはこう言われました。

「だが、わたしは今日も明日も、その次の日も自分の道を進

まねばならない。預言者がエルサレム以外の所で死ぬことは、ありえないからだ。」ルカ 13:33

それから 2000 年以上を経た今のわたしたちも、世界の混乱と戦争を見えています。身近なところにも不安があり、悩みがあります。いつまでこれが続くのか。神の救いはいつ、どのように実現するのか。心はうめきます。けれどもダニエルに呼びかけた同じ言葉が、わたしたちにも呼びかけています。

**「終わりまでお前の道を行き、憩いに入りなさい。」**

最後には神が救い、神が清められるのだから、あなたは終わりまで、あなたに与えられた道を行きなさい。神があなたに備えていてくださるあなたの道を行きなさい。

これは諦めではありません。神を信じ、神から自分に託された何かを引き受けて進んで行く、積極的な信仰の歩みです。

そしてあなたの道の終わりには、神が用意してくださる憩いがある。そう約束されています。

**「終わりまでお前の道を行き、憩いに入りなさい。」**

祈ります。

神さま、主イエスがご自分の道を行かれたように、わたしたちもあなたに与えられた自分の道を、終わりまで行かせてくだ

さい。わたしたちを失望と不安から守り、あなたのみ国に向かって歩ませてください。そしてあなたが用意してくださる憩いに入らせてください。主のみ名によってお願いいたします。  
アーメン